

調査速報

タイ自動車市場月次統計（2018年1月）

2018年初月の国内生産は年率 200 万台割れとスロースタート気味だが、内外需とも今のところ堅調さを維持。

主任研究員

深尾 三四郎

045-225-2375

fukao@yokohama-ri.co.jp

要約

- 1月生産台数（季調値）は前月比3.2%減の197万台。内外需ともに減少したことが減産の背景。
- ベトナムの非関税障壁の構築もあり、輸出台数（季調値）は同6.5%減の117万台と減少。
- 国内販売（季調値）も同8.4%減の91万台。年率90万台は維持しており引き続き堅調。

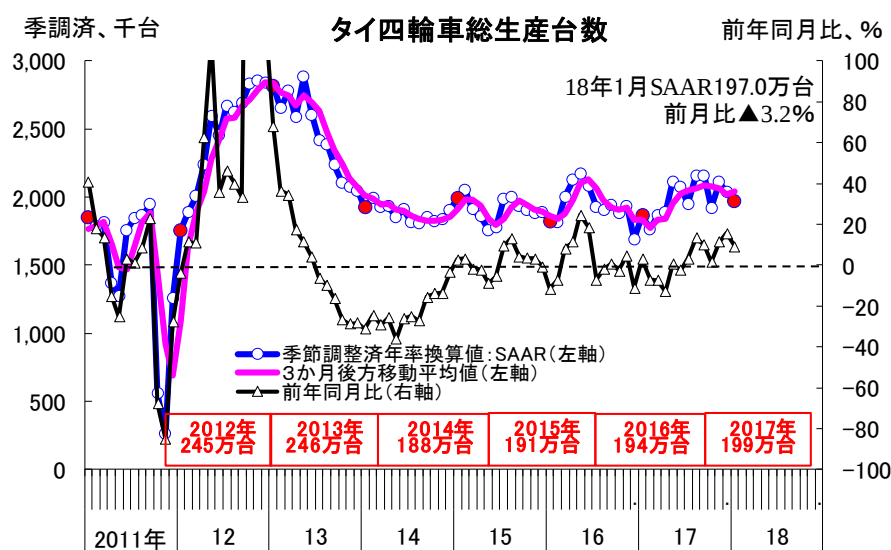
18年初月の国内生産台数（季調値）は前月比3.2%減の197万台。年率200万台割れのスロースタート。

タイ工業連盟（Federation of Thai Industries：以下、FTI）が発表した2018年1月の四輪車総生産台数は、前年同月比9.2%増と7か月連続で前年超えしたが、季節調整済年率換算値（当社試算、以下SAAR）は前月比3.2%減の197.0万台と2か月連続で減少し、年率200万台割れのスタートとなった（図表1）。輸出と国内販売のSAARがともに前月比で減少し（後述）、減産となった。

1月の総輸出台数は前年同月比2.5%増と3か月連続で前年超えしたが、SAARは前月比6.5%減の116.5万台と減少した（図表2）。ベトナムが港湾における輸入車両への検査手続きを煩雑化させる非関税障壁を築いたことが、輸出減速の一要因となったと考える。もっとも、足元のSAAR水準は17暦年実績114万台を上回っている。引き続き輸出需要の動向には要注意ではあるが、現時点では堅調な印象だ。

1月の国内販売台数は前年同月比16.2%増と13か月連続の前年超えとなったが、SAARは前月比8.4%減の91.1万台と減少した（図表3）。なお、前月12月はタイ最大規模のモーターショーが開催され（11月30日～12月11日）、当会場での受注台数が前年比23%増の4万台と好調だったことが背景にあり、販売台数はやや出来過ぎで、1月のSAARが減少することは想定内であった。もっとも、1月の需要水準は年率90万台を超えており、3か月後方移動平均値で見た国内販売のトレンドも増加基調が続いている。相次ぐ新モデルの市場投入と販促強化が続いている上、消費者信頼感指数が上昇基調にあるように、消費ムードは改善が続いており、内需に関しては底堅さが感じられる（図表4）。

図表1 1月自動車生産（SAAR）は減少

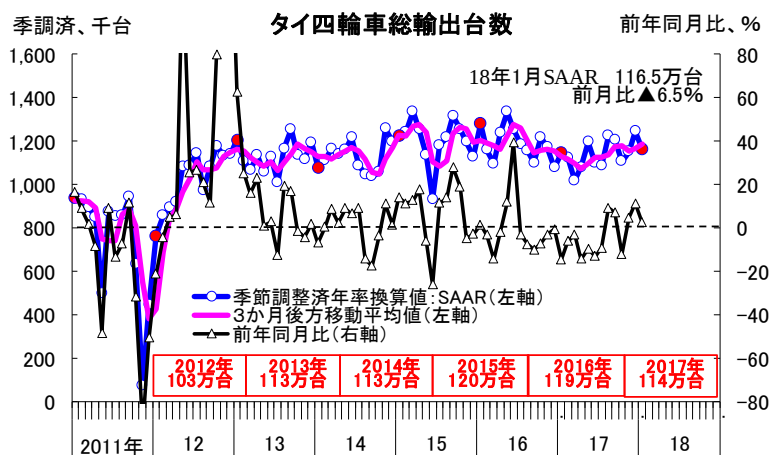


注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所：Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 輸出台数 (SAAR) が減少

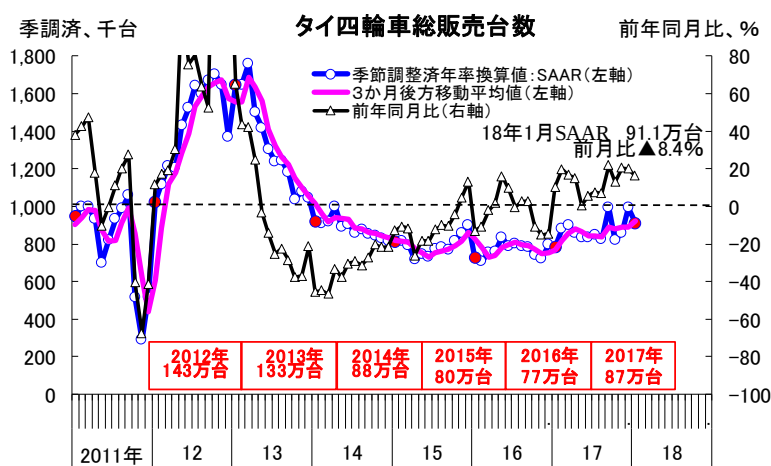


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表3 国内販売 (SAAR) も減少

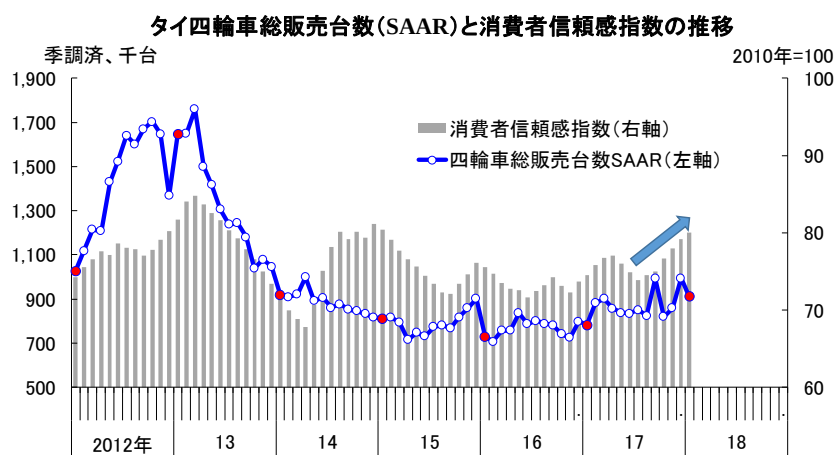


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表4 消費マインドは改善傾向が続いている



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: Federation of Thai Industries、University of the Thai Chamber of Commerceのデータを基に作成

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。